

K-510

数理解析研究所講究録 54

短期共同研究

有限群の研究



京都大学数理解析研究所

1968年10月

有限群の研究

短期共同研究

1968年 3月18日～3月21日

目次

1. まえがき 1
東大 理 岩堀 長慶
2. B群について (金沢稔氏講演) 2
上智大 理工 横沼 健雄
3. 木村: "位相 $4n(n-1)$ の n 次の 2 重可遷群"
について 12
名大 理 岩崎 史郎
4. 4重可移群の分類問題 22
阪大 理 永展 汎
5. $SU_3(5)$ の特徴づけ 35
名大 理 原田 耕一郎
(T. T. 生記)

6. 12~15次交代群の特徴づけ
(八牧宏美氏の結果) 44
東大 教養 近藤 武
7. T. Kondo の交代群の特徴づけについて 50
名大 理 原田 耕一郎
8. ρ 群の或例について 62
神戸商船大 中村 喜理雄
9. M群について (稲垣氏の講演) 66
熊大 理 金沢 稔
10. 横沼健雄氏の講演 (R. Ree の論文の紹介) 72
東大 理 岩塚 長慶

ま え が き

この報告集は昭和43年3月18日—21日に京都大学教理解析研究所において開かれた有限群論のシンポジウム「有限群の研究」において、なされた講演および時間の都合でなされなかった講演の内容の報告集である。今回は一つの試みとして、講演者と、その講演記事の報告者とは別々にするという方式に従って見た。それにより、一般的読者に対して理解し易くなるであろうということと、また講演者と報告者の配合を適当にすることにより、教学的内容に対する通り一遍でない解説記事が期待されるのみならず、日常の接触面についても何等か *implicit* な描写も期待される——というようなのがその理由である。勿論当業者でなければ書けぬような微妙な点、深い事実が報告集から喪われるかも知れない——ということは無視できぬ重要な点であるが、今回は敢てそれに眼をつむって、日本ではあまり行なわれぬ試みを試みた次第である。それがうまく行っているか否かは読者の批判に待つたい。最後に編集者の怠慢から発行が遅れたのをお詫びする。

昭和43年10月16日

岩 堀 長 慶